

岡山理科大学紀要原稿作成要領

(2023.7訂正版：No.59(2023)以降適用)

(I) 紀要論文(横書き)	2
[1] 基本的な書式	2
1-1. ページ設定 [ワープロなどは以下の設定を基準とする。]	2
1-2. 原稿の印刷	2
1-3. 日本語の論文を執筆する場合の留意事項	3
1) 標題部	3
2) 抄録部	4
3) 論文部	4
4) 欧文抄録部 [外国語の論文を執筆する場合の留意事項を参照すること。]	5
6. キーワード(A分冊では必須)	6
1-4. 外国語の論文を執筆する場合の留意事項	7
1) 標題部	7
2) 抄録部	8
3) キーワード(A分冊では必須)	8
4) 論文部	8
[2] 図および写真の掲載	10
2-1. 図および写真の作成	10
2-2. 図および写真の番号、説明など	10
[3] 表について	10
(II) 紀要論文(縦書き)	11
[1] 基本的な書式	11
1-1. ページ設定 [ワープロなどは以下の設定を基準とする。]	11
1-2. 原稿の印刷	11
1-3. 日本語の論文を執筆する場合の留意事項	11
1) 標題部	11
2) 抄録部	12
3) 論文部	13
4) 欧文抄録部 [横書きおよび外国語の論文を執筆する場合の留意事項を参照すること。]	13
(III) 補足	13
(IV) 変更	13
(V) 実施	14
(VI) 所属例一覧	15
(VII) 論文サンプル	17

岡山理科大学紀要原稿作成要領

本要領は、本学紀要が、統一を持った論文集として刊行されるために、執筆者が守る書式について定めてある。

(I) 紀要論文 (横書き)

[1] 基本的な書式

1-1. ページ設定 [ワープロなどは以下の設定を基準とする。]

1) 用紙サイズ A4縦

2) 段組

- | | |
|--|--------------|
| 1. 標題部 (論題, 著者名, 著者の所属) | 1 段組 |
| 2. 論文部 (論文, 参考文献リスト) | 1 段組または 2 段組 |
| 3. 抄録部
(日本語論文の欧文抄録・外国語論文および日本語論文の先頭に抄録を付す場合の抄録) | 1 段組 |

3) 行数 48行

4) 余白

- ・天地 天から 35mm
地から 30mm
- ・左右 左から 25mm
右から 25mm
- ・2段組の場合の段間 7mm

5) 仮ページ

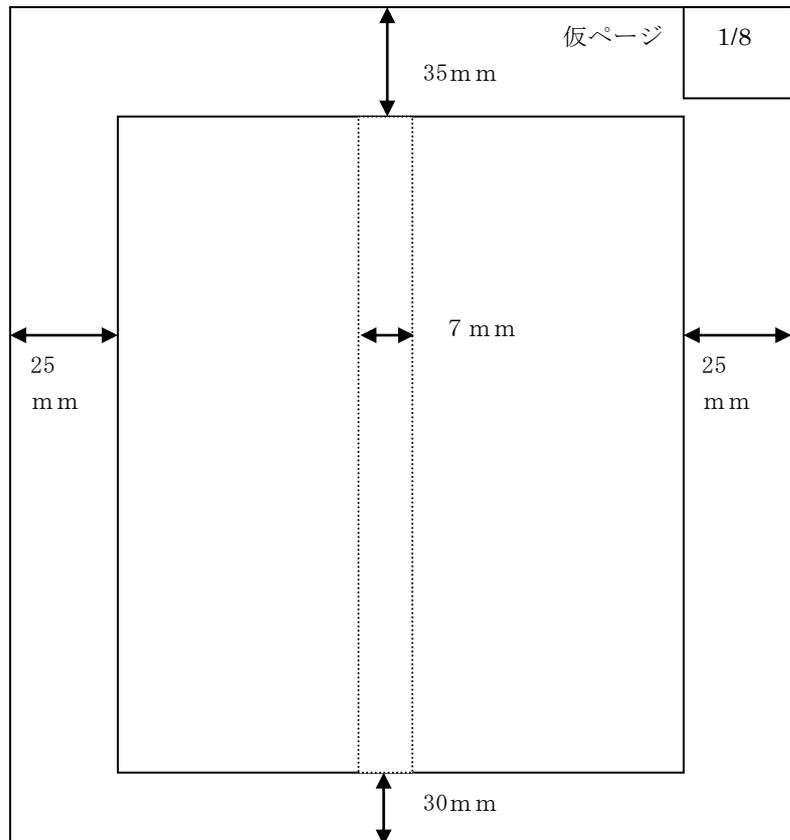
- (1 論文内でのページ付け)
- ・天の余白部分右肩に、
ページ数/総ページ数
の書式で記載する。
- ・鉛筆書きが望ましい。

6) 各ページのヘッダー部 (論文

1 ページ目=紀要名・号次/その他の奇数ページ=論題/偶数ページ=著者名) は通しページとともに、業者に印刷を委託する。

1-2. 原稿の印刷

- ・紀要原稿は、本文・表・図などは黒色で印刷されていること。
- ・紀要投稿規程第 5 条にあるように原稿の他に写しを一部提出すること。



1-3. 日本語の論文を執筆する場合の留意事項

1) 標題部

1. 論題 文字・フォント=ゴシック

- ・太 さ =太字
- ・大きさ =14ポイント

配置・中央揃え (センタリング)

- ・2行以上に渡る時の2行目以下も中央揃えとする。
- ・論題は1行30文字以内が望ましく、それを越える場合は改行する。

2. 副題 (サブタイトル)

文字・フォント=明朝

- ・太 さ =普通 (または標準)
- ・大きさ =12ポイント

配置・論題との間に1行空白行を設ける。空白行の高さは本文の文字の大きさとする。

(以下の空白行も全て同様)

- ・中央揃え (センタリング)
- ・2行以上に渡る時の2行目以下も中央揃え副題には、前後にダッシュ (—) を付す。

3. 著者名

文字・フォント=明朝

- ・太 さ =普通 (または標準)
- ・大きさ =12ポイント

配置・論題 (副題がある場合は副題) から、2行空白行を設けた後の行から記述する。

- ・著者が複数いる場合は、筆頭著者を先頭に記載し、他の記載順は責任著者の判断にゆだねる。
- ・著者が4人までは1行に記載し、これを超える時は、次の行に記載する。
以下著者の増加には同じ方法で対応する。
- ・著者が複数いる場合は中黒点でつなぐ。ただし、その行の最後には中黒点を付さない。
- ・中央揃え (センタリング)
- ・2行以上に渡る時は2行目以下も中央揃えとする。

その他・著者名の姓と名の間は1文字分の空白を置く。著者が複数いる場合は、責任著者の著者名の右肩に* (アスタリスク) を付す。また、著者が複数おり、その所属が異なる場合は、筆頭著者と異なる所属の著者名の末尾右肩に著者番号 (例「¹⁾」、「²⁾」、・・・) を付す。なお、次項「著者の所属」の項も併せて参照すること。

4. 著者の所属

文字・フォント=明朝

- ・太 さ =普通 (または標準)
- ・大きさ =8ポイント

配置・著者名の最後の行の次の行から記述する。最初の行は、筆頭著者の所属、2行目からは先頭に著者番号を付して順に異なる所属を1行ずつ記述する。

その他・所属名は正式名称を記載する。

- ・本学の教職員の場合、所属は学科までとする。
- ・本学の大学院生の場合、所属は専攻までとする。
- ・学外者の所属の記載については、責任著者の判断にゆだねる。

5. 受付日・受理日

- ・受付日および受理日は紀要委員会で記入する。

2) 抄録部

冒頭に日本語の抄録を付す場合は、著者の所属の最後の行から3行（一行は受理日が入る）空白行を置いてから記述する。

- 文字・フォント＝明朝
- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝9ポイント
- 配置・1行48文字

3) 論文部

論文部は、著者の所属の最後の行から、3行空白行を置いてから記述する。抄録を先頭に付す場合は、抄録の最後の行から、3行空白行を置いてから記述する。

1. 章に相当する標題（以下章題）および章番号

- 文字・フォント＝ゴシック
- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝9ポイント
- 配置・章題および章番号の上は空白行を1行設ける。
- ・左詰め

2. 章中の小項目の標題（以下項目題）および項目番号

- 文字・フォント＝明朝
- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝9ポイント
- 配置・前行が章題（章番号）でない場合は、上に空白行を1行設ける。前行が章題（章番号）の場合は、空白行を設けない。
- ・左詰め

3. 本文

- 文字・フォント＝明朝
- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝9ポイント
- 配置 <1段組の場合>
- ・1行48文字、48行
- <2段組の場合>
- ・1行24文字、48行
- ・章題（項目題がある場合は項目題）または章番号（項目番号がある場合は項目番号）の次の行から始める。
- ・可能であれば禁裏処理をすること。

4. 使用記号および参考文献

- 文字・フォント＝明朝
- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝8ポイント
- 表記・各分野の慣行に従う。
- 配置・一段組または二段組

4) 欧文抄録部 [外国語の論文を執筆する場合の留意事項を参照すること。]

1. 論題 文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。
 - ・太 さ ＝太字
 - ・大きさ ＝16ポイント配置・中央揃え (センタリング)
 - ・2行以上に渡る時の2行目以下も中央揃えとする。

2. 副題 (サブタイトル)

- 文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。
- ・太 さ ＝普通 (または標準)
 - ・大きさ ＝14ポイント
- 配置・論題の次の行に副題を記載す。
- ・副題は、“—” (ダッシュ) で囲む。
 - ・中央揃え (センタリング)
 - ・2行以上に渡る時は2行目以下も中央揃え

3. 著者名

- 文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。
- ・太 さ ＝普通 (または標準)
 - ・大きさ ＝12ポイント
- 配置・論題 (副題がある場合は副題) から、2行空白行を設けた後の行から記述する。英文の場合、著者が2人までは“and”でつなぎ、それを越える場合は“,”で区切り最後は“and”でつなく。
- ・著者の順番は、標題語にあわせる。
 - ・3人までは1行目に記載し、それを越える場合は、次の行に記載する。以下著者の増加には同じ要領で対応する。
 - ・中央揃え (センタリング)
 - ・2行以上に渡る場合、2行目以下も中央揃えとする。

その他・姓名の順番は、その言語の慣用に従うが、姓はすべて大文字、名は先頭の1文字のみ大文字で後は小文字とする。

(例; T a r o R I D A I)

- ・著者が複数いる場合は、責任著者の著者名の右肩に* (アスタリスク) を付す。また、著者が複数おり、その所属が異なる場合は、筆頭著者と異なる所属の著者名の末尾右肩に著者番号 (例「¹」、「²」、・・・) を付す。なお、次項「著者の所属」の項も併せて参照すること。

4. 著者の所属

- 文字・フォント＝イタリック
- ・太 さ ＝普通 (または標準)
 - ・大きさ ＝9ポイント

配置・著者名の最後の行の次の行から記述する。最初の行は、筆頭著者の所属、2行目からは先頭に著者番号を付して順に異なる所属を1行ずつ記述する。

その他・欧文抄録の場合、著者の所属の次の行に住所を欧文で記載する。

- ・所属名の外国語については正式名称を使用する。
- ・本学の教職員の場合、所属は学科までとする。
- ・本学の大学院生の場合、所属は研究科までとする。
- ・学外者については、責任著者の判断にゆだねる。

5. 抄録

文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝10ポイント

配置・両端前え（justification）を原則とする。

- ・著者の所属の最後の行から、3行空白行を置いてから記述する。
- ・1つの単語が行を跨る場合は、慣用に従ってハイフン（-）でつなぐことを原則とする。

字下げ・インデントは3文字分設けるのが望ましい。

6. キーワード（A分冊では必須）

文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝10ポイント

配置・両端前え（justification）を原則とする。

- ・抄録の最後の行から、1行空白行を置き、記述する。

表記・行頭にインデントなしで見出し語「**Keywords:**」（見出し語は太字で、コロンの後に半角スペース）を置き、それに続けて記述する。キーワードとキーワードの間は、「;」（半角のセミコロンおよび半角スペース）で区切り、最後のキーワードの後ろにピリオドをつける。記載が複数行にわたる場合には、2行目以降も行頭のインデントは行わない。

- ・キーワードの頭文字は普通名詞の場合には小文字とする。
- ・1つの単語が行を跨る場合は、慣用に従ってハイフン（-）でつなぐことを原則とする。

1-4. 外国語の論文を執筆する場合の留意事項

[論文の執筆に関しては、使用する言語の文法・語法に従うものとする。]

1) 標題部

1. 論題 文字・フォント=可能であれば Century, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ =太字
- ・大きさ =16ポイント

配置・中央揃え (センタリング)

- ・2行以上に渡る時の2行目以下も中央揃えとする。

2. 副題 (サブタイトル)

文字・フォント=可能であれば Century, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ =普通 (または標準)
- ・大きさ =14ポイント

配置・中央揃え (センタリング)

- ・2行以上に渡る時の2行目以下も中央揃え
- ・論題の次の行に、副題を記載する。
- ・副題は、“-” (ダッシュ) で囲む。

3. 著者名

文字・フォント=可能であれば Century, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ =普通 (または標準)
- ・大きさ =12ポイント

配置・論題 (副題がある場合は副題) から、2行空白行を設けた後の行から記述する。

英文の場合、著者が2人までは“and”でつなぎ、それを超える場合は“,”で区切り最後は“and”でつなく。

- ・3人までは1行目に記載し、それを越える場合は、次の行に記載する。以下著者の増加には同じ要領で対応する。
- ・中央揃え (センタリング)
- ・2行以上に渡る時の2行目以下も中央揃えとする。

その他・姓名の順番は、その言語の慣用に従うが、姓はすべて大文字、名は先頭の1文字のみ大文字で後は小文字とする。

(例: T a r o R I D A I)

- ・著者が複数いる場合は、責任著者の著者名の右肩に* (アスタリスク) を付す。また、著者が複数おり、その所属が異なる場合は、筆頭著者と異なる所属の著者名の末尾右肩に著者番号 (例「¹⁾」、「²⁾」、・・・) を付す。なお、次項「著者の所属」の項も併せて参照すること。

4. 著者の所属

文字・フォント=イタリック (斜体)

- ・太 さ =普通 (または標準)
- ・大きさ =9ポイント

配置・中央揃え (センタリング)

- ・著者名の最後の行の次の行から記述する。最初の行は、筆頭著者の所属、2行目からは著者番号を付して順に異なる所属を1行ずつ記述する。

その他・欧文論文の場合、著者の所属の次の行に住所を欧文で記載する。

- ・所属名は正式名称を使用する。
- ・本学の教職員の場合、所属は学科までとする。
- ・本学の大学院生の場合、所属は研究科までとする。
- ・学外者については、責任著者の判断にゆだねる。

5. 受付日・受理日

- ・受付日および受理日は紀要委員会で記入する。

2) 抄録部

外国語の論文に抄録を付す場合は、著者の所属の最後の行から3行（1行は受理日が入る）空白行を置いてから記述する。

文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ ＝太字（ボールド）
- ・大きさ ＝9ポイント

配置・両端揃え（justification）を原則とする。

字下げ・インデントは、3文字分設けるのが望ましい。

3) キーワード（A分冊では必須）

文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝9ポイント

配置・両端揃え（justification）を原則とする。

- ・抄録のある場合は、その最後の行から1行空白行を置き、記述する。抄録がない場合は、著者の所属の最後の行から3行空白行を置き、記述する。

表記・行頭にインデントなしで見出し語「**Keywords:**」（見出し語は太字で、コロンの後に半角スペース）を置き、それに続けて記述する。キーワードとキーワードの間は、「;」（半角のセミコロンおよび半角スペース）で区切り、最後のキーワードの後ろにピリオドをつける。記載が複数行にわたる場合には、2行目以降も行頭のインデントは行わない。

- ・キーワードの頭文字は普通名詞の場合には小文字とする。
- ・1つの単語が行を跨る場合は、慣用に従ってハイフン（-）でつなぐことを原則とする。

4) 論文部

論文部は、キーワードの最後の行から、3行空白行を置いてから記述する。抄録を先頭に付す場合は、抄録の最後の行から、3行空白行を置いてから記述する。

1. 章に相当する標題（以下章題）および章番号

文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ ＝太字
- ・大きさ ＝10ポイント

配置・章題および章番号の上は空白行を1行設ける。

- ・左詰め

2. 章中の小項目の標題（以下項目題）および項目番号

文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝10ポイント

配置・前行が章題（章番号）でない場合は、上に空白行を1行設ける。前行が章題（章番号）の場合は、空白行を設けない。

- ・左詰め

その他・Summary, Abstract 等の見出しはつけない。

- ・Acknowledgement の前には番号をつけない。

3. 本文

文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝10ポイント

配置・章題（項目題がある場合は項目題）または章番号（項目番号がある場合は項目番号）の次の行から始める。

- ・両端揃え（justification）を原則とする。
- ・1つの単語が2行を跨る場合は、慣用に従ってハイフン（-）でつなぐことを原則とする。

字下げ・インデントは、3文字分設けるのが望ましい。

4. 使用記号及び参考文献

文字・フォント＝可能であればCentury, Roman, Times Roman, Times new Roman のどれかを使用する。

- ・太 さ ＝普通（または標準）
- ・大きさ ＝8ポイント

表記・各分野の慣用に従う。

配置・1段組または2段組

[2] 図および写真の掲載

2-1. 図および写真の作成

・図および写真については、著者が原稿中に作成したものをそのまま使用する。ただし、申し出があれば、別途添付し、版下を作成することができる。その場合、本文中で添付する写真・図に該当する部分を空白にし、図および写真の番号、説明文のみを空白部分の下部に記載する。その場合、次の「2-2. 図および写真の番号、説明など」に則って記載する。

なお、別添する写真・図の裏側に、本文中と同じ番号（できれば説明文まで）記入する。

- ・図および写真の番号、説明などの文字の大きさは、9ポイントを原則とする。
- ・写真、図を別に添付し版下を作成する場合は、原図の縮尺率を、原寸大から50%の範囲とする。
- ・特に必要のない限り、図の中の文字は、本文中の文字と同じ書式（フォント、字体、など）とする。
- ・カラー図版は原則として載せないが、要望があれば掲載する。これによって発生する費用は著者の負担とする。

2-2. 図および写真の番号、説明など

・原則として番号を図または写真の下に記入する。特に必要のない限り、一連のアラビア数字を用いた続き番号とする。章と同じ形式の番号（1-1, 1-3）等とはしない。

・図の番号、タイトル、凡例解説、説明文は一読することで、内容が明らかとなる表記とし、次の例を標準とする。

図 1 岡山理科大学の現状

Fig. 1 紀要における図の書き方

Fig. 1 Thermal stability of ……

[3] 表について

- ・表は極力小さくし、原則として縦線は入れない。又横線も極力省く。（例を参照）
- ・表のタイトルは表の上端中央に記し、凡例解説等は下端に記し、左詰めとする。
- ・表の番号は特に必要のない限り、一連の数字とする。

(例) Table 2 Weighted average concentration of nutrient element in rain water.

	Through fall			incident
	P-1	P-2	P-3	Precipitation
Ca	1.07	0.74	0.20	0.20
Mg	0.39	0.33	0.27	0.085

sample of footnote

2. 副題 (サブタイトル)

文字・フォント＝明朝

・太 さ ＝普通 (または標準)

・大きさ ＝12ポイント

配置・論題との間に1行空白行を設ける。空白行の高さは本文の文字の大きさとする。

(以下の空白行も全て同様)

・副題には、前後にダッシュ (—) を付す。

3. 著者名

文字・フォント＝明朝

・太 さ ＝普通 (または標準)

・大きさ ＝12ポイント

配置・論題 (副題がある場合は副題) から、2行空白行を設けた後の行から記述する。

・著者が複数いる場合は、筆頭著者を先頭に記載し、他の記載順は責任著者の判断にゆだねる。

・著者が4人まででは1行に記載し、これを超える時は、次の行に記載する。

以下著者の増加には同じ方法で対応する。

・著者が複数いる場合は中黒点でつなぐ。ただし、その行の最後には中黒点を付さない。

・1行の半分より下側

・2行以上に渡る時は2行目以下も同様とする。

その他・著者名の姓と名の間は1文字分の空白を置く。著者が複数いる場合は、責任著者の著者名の右肩に* (アスタリスク) を付す。また、著者が複数おり、その所属が異なる場合は、筆頭著者と異なる所属の著者名の右肩に著者番号 (例「①」、「②」、・・・) を付す。なお、次頁「著者の所属」の項も併せて参照すること。

4. 著者の所属

文字・フォント＝明朝

・太 さ ＝普通 (または標準)

・大きさ ＝8ポイント

配置・著者名の最後の行の次の行から記述する。最初の行は、筆頭著者の所属、2行目からは先頭に著者番号を付して順に異なる所属を1行ずつ記述する。

その他・所属名は正式名称を記載する。

・本学の教職員の場合、所属は学科までとする。

・本学の大学院生の場合、所属は専攻までとする。

・学外者の所属の記載については、責任著者の判断にゆだねる。

5. 受付日・受理日

・受付日および受理日は総要委員会で記入する。

2) 抄録部

冒頭に日本語の抄録を付す場合は、著者の所属の最後の行から3行 (1行は受付日が入る) 空白行を置いてから記述する。

文字・フォント＝明朝

・太 さ ＝普通 (または標準)

・大きさ ＝9ポイント

配置・1行64文字

3) 論文部

論文部は、著者の所属の最後の行から、3行空白行を置いてから記述する。抄録を先頭に付す場合は、抄録の最後の行から、3行空白行を置いてから記述する。

1. 章に相当する標題 (以下章題) および章番号

文字・フォント＝ゴシック

・太さ＝普通 (または標準)

・大きさ＝9ポイント

配置・章題および章番号の上は空白行を1行設ける。

・左詰め

2. 章中の小項目の標題 (以下項目題) および項目番号

文字・フォント＝明朝

・太さ＝普通 (または標準)

・大きさ＝9ポイント

配置・前行が章題 (章番号) でない場合は、上に空白行を1行設ける。前行が章題 (章番号) の場合は、空白行を設けない。

・左詰め

3. 本文

文字・フォント＝明朝

・太さ＝普通 (または標準)

・大きさ＝9ポイント

配置 <1段組の場合>

・1行64文字、36行

<2段組の場合>

・1行32文字、36行

・章題 (項目題がある場合は項目題) または章番号 (項目番号がある場合は項目番号) の次の行から始める。

・可能であれば禁製処理をすること。

4. 使用記号および参考文献

文字・フォント＝明朝

・太さ＝普通 (または標準)

・大きさ＝8ポイント

表記・各分野の慣行に従う。

配置・一段組または二段組

4) 欧文抄録部 [横書きおよび外国語の論文を執筆する場合の留意事項を参照すること。]

(III) 補足

当要領の文中で、「可能であれば」という表現をしている部分は、厳守しなくてもよい。「原則とする」という表現についても同じである。

(IV) 変更

当要領の変更は、紀要委員会で協議・決定し、学内に周知する。

(V) 実施

当要領は平成11年4月1日より、実施する。

当改正要領は、平成18年度以降に発行する紀要への投稿原稿に、適用する。

当改正要領は、平成19年度以降に発行する紀要への投稿原稿に、適用する。

当改正要領は、平成21年度以降に発行する紀要への投稿原稿に、適用する。

当改正要領は、平成28年度以降に発行する紀要への投稿原稿に、適用する。

当改正要領は、令和5年度以降に発行する紀要への投稿原稿に、適用する。

(VI) 所属例一覧

日本語表記 (8pt)	英語表記 (9pt / イタリック)
岡山理科大学理学部応用数学科	<i>Department of Applied Mathematics, Faculty of Science, Oka...</i>
〃 理学部化学科	<i>Department of Chemistry, Faculty of Science, Oka...</i>
〃 理学部応用物理学科	<i>Department of Applied Physics, Faculty of Science, Oka...</i>
〃 理学部物理学科	<i>Department of Physics, Faculty of Science, Oka...</i>
〃 理学部基礎理学科	<i>Department of Applied Science, Faculty of Science, Oka...</i>
〃 理学部生物化学科	<i>Department of Biochemistry, Faculty of Science, Oka...</i>
〃 理学部臨床生命科学科	<i>Department of Life Science, Faculty of Science, Oka...</i>
〃 理学部動物学科	<i>Department of Zoology, Faculty of Science, Oka...</i>
〃 工学部バイオ応用化学科	<i>Department of Biotechnology and Applied Chemistry, Faculty of Engineering, Oka...</i>
〃 工学部応用化学科	<i>Department of Applied Chemistry, Faculty of Engineering, Oka...</i>
〃 工学部機械システム工学科	<i>Department of Mechanical Systems Engineering, Faculty of Engineering, Oka...</i>
〃 工学部電気電子システム学科	<i>Department of Electrical and Electronic Engineering, Faculty of Engineering, Oka...</i>
〃 工学部情報工学科	<i>Department of Information and Computer Engineering, Faculty of Engineering, Oka...</i>
〃 工学部知能機械工学科	<i>Department of Intelligent Mechanical Engineering, Faculty of Engineering, Oka...</i>
〃 工学部生命医療工学科	<i>Department of Biomedical Engineering, Faculty of Engineering, Oka...</i>
〃 工学部建築学科	<i>Department of Architecture, Faculty of Engineering, Oka...</i>
〃 工学部工学プロジェクトコース	<i>Engineering Project Course, Faculty of Engineering, Oka...</i>
〃 総合情報学部情報科学科	<i>Department of Information Science, Faculty of Informatics, Oka...</i>
〃 総合情報学部社会情報学科	<i>Department of Socio-Information, Faculty of Informatics, Oka...</i>
〃 生物地球学部生物地球学科	<i>Department of Biosphere-Geosphere Science, Faculty of Biosphere-Geosphere Science, Oka...</i>
〃 教育学部初等教育学科	<i>Department of Primary Education, Faculty of Education, Oka...</i>
〃 教育学部中等教育学科	<i>Department of Secondary Education, Faculty of Education, Oka...</i>
〃 経営学部経営学科	<i>Department of Management, Faculty of Management, Oka...</i>
〃 獣医学部獣医学科	<i>Department of Veterinary Medicine, Faculty of Veterinary Medicine, Oka...</i>
〃 獣医学部獣医保険看護学科	<i>Department of Veterinary Associated Science, Faculty of Veterinary Medicine, Oka...</i>
〃 情報理工学部情報理工学科	<i>Department of Information Science and Engineering, Faculty of Information Science and Engineering, Oka...</i>
〃 生命科学部生物科学科	<i>Department of Bioscience, Faculty of Life Science, Oka...</i>
〃 アクティブラーナーズコース	<i>Active Learners Course, Okayama University of Science</i>

※ 令和5年4月現在。

また、英語表記中の“Oka...”の部分は、論文執筆時等は“Okayama University of Science”と記載して下さい。

日本語表記 (8pt)	英語表記 (9pt / イタリック)
〃 理学研究科博士課程応用数学専攻	<i>Graduate School of Science, Okayama University of Science</i>
〃 理学研究科博士課程材質理学専攻	
〃 理学研究科修士課程応用数学専攻	
〃 理学研究科修士課程化学専攻	
〃 理学研究科修士課程応用物理学専攻	
〃 理学研究科修士課程総合理学専攻	
〃 理学研究科修士課程生物化学専攻	
〃 理学研究科修士課程臨床生命科学専攻	
〃 理学研究科修士課程動物学専攻	
〃 工学研究科博士課程システム科学専攻	
〃 工学研究科修士課程応用化学専攻	
〃 工学研究科修士課程機械システム工学専攻	
〃 工学研究科修士課程電子工学専攻	
〃 工学研究科修士課程情報工学専攻	
〃 工学研究科修士課程知能機械工学専攻	
〃 工学研究科修士課程生体医工学専攻	
〃 工学研究科修士課程建築学専攻	
〃 総合情報研究科博士課程数理・環境システム専攻	<i>Graduate School of Informatics, Okayama University of Science</i>
〃 総合情報研究科修士課程情報科学専攻	
〃 総合情報研究科修士課程社会情報専攻	
〃 生物地球科学研究科修士課程生物地球科学専攻	<i>Graduate School of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science</i>
〃 マネジメント研究科修士課程マネジメント専攻	<i>Graduate School of Management, Okayama University of Science</i>
〃 理工学研究科博士課程自然科学専攻	<i>Graduate School of Science and Engineering, Okayama University of Science</i>
〃 理工学研究科博士課程システム科学専攻	
〃 理工学研究科修士課程自然科学専攻	
〃 理工学研究科修士課程システム科学専攻	

※ 令和5年4月現在。

また、英語表記中の“Oka...”の部分は、論文執筆時等は“Okayama University of Science”と記載して下さい。

タイトル [ゴシック/太字/14ポイント/中央揃え]

<空白行>

—副題 (サブタイトル) [明朝/普通/12ポイント/中央揃え/

前後をダッシュで囲む] —

<空白行>

<空白行>

筆頭 著者・共著者 一人¹⁾・明朝 普通¹⁾・中央 揃²⁾

姓12ポイント²⁾・姓六 名六³⁾*

岡山理科大学理学部応用数学科

1)岡山理科大学大学院理学研究科修士課程応用数学専攻

2)岡山理科大学総合情報学部数理情報学科

3)岡山理科大学工学部情報工学科 [明朝/普通/8ポイント]

<空白行>

<空白行>

<空白行>

1. 章題 [ゴシック/普通/9ポイント]

1-1 項目題 [明朝/普通/9ポイント]

本文では、以下の点に注意して下さい。次項より使用する文字の種類(フォント/太さ/大きさ)、段組、その他の順で説明を記載しています。

<空白行>

1-2 文字の種類

本文には、次の文字を使用して下さい。

- ・フォント : 明朝
- ・字の太さ : 普通または標準
- ・大きさ : 9ポイント

<空白行>

1-3 段組について

本文は、1段組または2段組で記載して下さい。(この例は2段組で作成しています。)1ページの文字数と行数は下記の書式を使用して下さい。

- ・1段組の場合 : 1行48文字*48行
- ・2段組の場合 : 1行24文字*48行*2段

<空白行>

1-4 章題・項目題の空白行の位置について

章題の直前の行は空白行として下さい。

章題と項目題の間には空白行を入れないで下さい。項目題の直前が章題でない場合のみ、項目題の直前の行を空白行として下さい。

<空白行>

1-5 禁則処理について

可能であれば、句読点や「」などを行頭に置かない、あるいは、「(」などを行末に置かない、などの

禁則処理をして下さい。

ワープロにある禁則処理機能の使用をお勧めします。ちなみに、前の行は禁則処理され25文字目の「。」が、次行に送られずに行末に残っています。

<空白行>

2. 標題部について

論題・著者名・著者の所属についての書式は、上記のフォント/太さ/大きさに合わせて下さい。各々の間に入っている空白行の数も、上記に合わせて下さい。

<空白行>

3. 上下左右の余白について

上端より3.5cm、下端より3cm、左端右端より2.5cmの余白を取って下さい。

<空白行>

4. 図・写真について

図や写真は原稿中に作成して下さい。(別途添付することも可能ですが、その場合は原稿中の該当位置を空白とし、図・写真の番号及び説明文をその空白の下に記載して下さい(この例は、写真は別添の場合のものです)。番号及び説明の大きさは、9ポイントです。

入力信号



出力信号

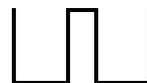


図1 入出力の関係[9pt] 写真1 評価装置[9pt]

原則として図や写真の番号はアラビア数字による連続した続き番号を使用して下さい。

<空白行>

5. 表について

表は極力小さくし、原則として縦線は入れないで下さい。また、表のタイトルは表の上端中央に記載し、凡例等解説は表の下端に左詰めで記載して下さい。

	上	下	左右
余白	3.5	3.0	2.5

※単位は cm

<空白行>

6. 参考文献の参照方法について

各分野の慣行に従った方法¹⁾で行って下さい。この例では、文献番号を振る方法を用いています。

また、参考文献の記載には、指定の種類²⁾の文字³⁾を使用して下さい。

<Space Line>

<Space Line>

Title[Century, Roman, Times Roman, Times New Roman /16 pt / Centering / Boldface]

— Subtitle[Century, Roman, Times Roman, Times New Roman / 14 pt / Centering]—

<Space Line>

<Space Line>

Author name, 2nd author¹⁾, 3rd author[same above / 12 pt / Centering]¹⁾,

4th author²⁾, 5th author²⁾ and 6th author³⁾ *

Department of Applied Mathematics, Faculty of Science[Italic / 9 pt / Centering],

1) Graduate School of Science,

2) Department of Mathematical Information Science, Faculty of Informatics,

3) Department of Information & Computer Engineering, Faculty of Engineering,

Okayama University of Science,

1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005, Japan

<Space Line>

<Space Line>

<Space Line>

Please read the section seven “Foreign language abstract” at first. Use the font : Century, Roman, Times Roman or Times new Roman / the size : 10 pt / justification here.

<Space Line>

Keywords: word1; word2; word3(font は抄録部と同じ / Size : 10 pt / 普通名詞の場合すべて小文字 / 固有名詞の場合には先頭は大文字 / 最後のキーワードの後ろにピリオドを付す); word4.

7. 欧文抄録について

本文が日本語である場合は、欧文抄録を作成して下さい(投稿規程第7条参照)。書式は、下記の例を参照して下さい。抄録本文は、1段組で記載し、原則として、両端揃え(justification)とし1単語が行を跨る場合には、慣用にしがたってハイフオン(-)でつないで下さい。

また、改ページせず論文部と同じページに記載する場合は、論文部との間に空白行を2行設けて下さい。

A分冊の場合は、1行空けて、必ず最後にキーワードを記載して下さい。(No. 42 A (2006)~)

<空白行>

参考文献

1) 扇元啓司・伊藤敏敏：学術情報の上手な仕上げ方，川島書店(1994)

2) 明朝／普通／8ポイント[本文が欧文の場合:Century, Roman, Times Roman, Times New Roman / 8 pt]

3) 1段組または2段組

Estimation of Gas Holdup in Three-Phase Fluidized Bed Containing Small or Low Density Particles [16pt/Centering/Boldface]

<Space line>

<Space line>

Toshiro MIYAHARA [12pt/Centering]

Department of Applied Chemistry,[italic/9pt/Centering]

Faculty of Engineering,

Okayama University of Science,

1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005, Japan

<Space line>

<Space line>

<Space line>

A mechanistic model based on the drift line created by a spherical bubble passing through a liquid is developed to predict the gas holdup in gas-liquid-solid three-phase fluidized beds containing small or low-density particles. In the model development, the drift line calculated from stream function for the three-dimensional case is used to predict the mean liquid rise path in the bubble street. The gas holdup can be estimated from the mean bubble rise velocity obtained by the sum of the following: the single bubble rise velocity, the mean liquid velocity calculated from the mean liquid path, the gas velocity in the bubble street, and the liquid velocity. Agreement between the calculated and measured values of gas holdup is fairly good using the correction factor. Also agreement of the calculated values of gas holdup with the measurements in the bubble column is good using a constant correction factor of around 0.7.

[9pt/Boldface]

<Space line>

Keywords: word1; word2; word3(font は抄録部と同じ / Size : 9 pt / 普通名詞の場合すべて小文字 / 固有名詞の場合には先頭は大文字 / 最後のキーワードの後ろにピリオドを付す); word4.

<Space line>

<Space line>

<Space line>

Introduction [10pt/Boldface]

[10pt] Gas-liquid-solid fluidized bed systems have been widely applied to many biotechnological processes such as fermentation and aerobic wastewater treatment in which very small particles and/or light particles whose densities are very close to those of the liquid media are contained. Previously, however, most research was concerned with three-phase fluidized beds of glass beads, alumina particles, etc., of which the densities were more than 2500 kg/m³ (Muroyama and Fan, 1984). One of the most important is the gas holdup necessary to predict the interfacial area. Bhatia and Epstein (1974) developed the generalized wake model. To estimate the gas holdup using this model requires two unknown parameters which are quite difficult to

obtain experimentally: the ratio of the solids holdup in the wake to that in the liquid-solid fluidized bed region and the ratio of the wake volume to the bubble volume for a multibubbles system. In calculations using the wake model, a potential difficulty exists in the estimation of the gas holdup for the model. Therefore, many empirical correlations for the gas holdup were proposed and the effect of particle size on the gas holdup was described (Muroyama and Fan, 1984).

In the present study, apart from the generalized wake model, we will propose a model based on the drift line created by a bubble passing through a liquid; we call it the drift line model. From the drift line model, the mean bubble rise velocity can be calculated. Concerning this mean bubble rise

velocity, a new approach for the calculation of the gas holdup is demonstrated for the study of the hydrodynamic characteristics of gas-liquid-solid fluidized bed systems containing small or low density particles.

<Space line>

1. Theoretical Model [10pt/Boldface]

1.1 Mean liquid rise path created by a bubble passing through a liquid [10pt]

As shown in Fig. 1 (Joshi and Shah, 1981), in a bubble column, the upward liquid flow at the center of the column and the downward flow near the wall, namely the liquid circulation flow, can be found.

※ 英語所属記載上の注意点

岡山理科大学の所属が複数続く場合には、大学名及び住所の部分は、最後の所属にのみ記載して下さい。例えば、応用数学科と修士課程応用数学専攻の所属を続けて書く場合には、以下のようになります。

** Department of applied mathematics,
Faculty of Science,
1) Graduate School of Science,
Okayama University of Science,
1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005, Japan*

タイトル「ゴシック／太字／14ポイント／上詰め」

―副題（サブタイトル）「明朝／普通／12ポイント／前後をダッシュで囲む―

（空白行）

筆頭 著者・⁽¹⁾* 共著者 一人目

（空白行）

岡山理科大学教育学部初等教育学科

⁽¹⁾ 岡山理科大学理学部基礎理学科

（空白行）

（空白行）

一・章題「ゴシック／普通／9ポイント」

一―一 項目題「明朝／普通／9ポイント」

本文では、以下の点に注意して下さい。次項より使用する文字の種類（フォント／太さ／大きさ）、段組、その他の順で説明を記載して下さい。

（空白行）

一―二 文字の種類

本文には、次の文字を使用して下さい。

- ・ フォント … 明朝
- ・ 字の太さ … 普通または標準
- ・ 大きさ … 9ポイント

（空白行）

一―三 段組について

本文は、1段組または2段組で記載して下さい。（この例は2段組で作成しています。）1ページの文字数と行数は次の書式を使用して下さい。

- ・ 1段組の場合 … 1行64文字*36行
- ・ 2段組の場合 … 1行32文字*36行*2段

（空白行）

一―四 章題・項目題の空白行の位置について

章題の直前の行は空白行として下さい。項目題の直前が章題と項目題の間には空白行を入れないで下さい。項目題の直前が章題でない場合のみ、項目題の直前の行を空白行として下さい。

（空白行）

一―五 禁則処理について

可能であれば、「句読点や」などを行頭に置かない、あるいは、「」などを行末に置かない、などの禁則処理をして下さい。ワープロにある禁則処理機能の使用をお勧めします。

（空白行）

二・ 標題部について

論題・著者名・著者の所属についての書式は、上記のフォント／太さ／大きさに合わせて下さい。各々の間に入っている空白行の数も、上記に合わせて下さい。

（空白行）

三・ 上下左右の余白について

上端より3.5cm、下端より3cm、左端右端より2.5cmの余白を取って下さい。

（空白行）

四・ 図・写真について

図や写真は原稿中に作成して下さい。（別途添付することも可能ですが、その場合は原稿中の該当位置を空白とし、図・写真の番号及び説明文をその空白の下に記載して下さい。番号及び説明の大きさは、9ポイントです。）

原則として図や写真の番号は数字による連続した続き番号を使用して下さい。

(空白行)

五・表について

表は極力小さくし、原則として縦線は入れないで下さい。また、表のタイトルは表の上端中央に記載し、凡例等解説は表の下端に記載して下さい。

(空白行)

六・参考文献の参照方法について

各分野の慣行に従った方法⁽¹⁾で行って下さい。この例では、文献番号を振る方法を用いています。

また、参考文献の記載には、指定の種類の文字⁽²⁾・段組⁽³⁾を使用して下さい。

(空白行)

七・欧文抄録について

本文が日本語である場合は、欧文抄録を作成して下さい(投稿規程第7条参照)。書式は、**横書きの例を参照して下さい**。抄録本文は、1段組で記載し、原則として、両端揃え(Justification)とし1単語が行を跨る場合には、慣用にしたがってハイフオン()でつないで下さい。

A分冊の場合は、1行空けて、必ず最後にキーワードを記載して下さい。(No.42 A (2006)～)

(空白行)

参考文献

(1) 扇元啓司・伊藤敬敏：学術情報の上質な仕上げ方，川島書店(1994)

(2) 明朝／普通／8ポイント[本文が欧文の場合：Century,

Roman, Times Roman, Times New Roman / 8 pt]

(3) 1段組または2段組